

〔弈問〕問王質欄柯之説信乎、曰不然也、堯至今三千六百年耳、度不能十局也、則爲神仙者曷壽焉、  
 〔枕草子七〕碁をやんごとなき人のうつとて、ひもうちときないがしろなるけしきにひろひをく  
 に、をとりたる人のぬすまむも、かしこまりたるけしきに、ごばんよりはすこしとをくてをよび  
 つ、袖のまたつまかた手にて、引やりつ、うちたるもおかし、

〔枕草子九〕したりがほなるもの、ごをうつに、さばかりとまらでふくつけさは、又こと所にか、  
 ぐりありくに、ことかたよりめもなくして、おほくひろひとりたるもうれしからじや、ほこりか  
 にうちわらひたゞのかちよりは、ほこりかなり、  
 あそびは、こゆみ、ゐんふたぎ、ご。

〔たはれぐさ〕碁はおかしきものなれど、國ををさめ、いくさするにたとふべき事多し、ある碁をよ  
 くせるといへる人のことばに、碁をよくせんとならば、まづ心の工夫をしたまへといひしとぞ、  
 これはつねの碁うちにはあるまじ、

〔河洛餘數序〕夫後人事業、皆不及古、惟推步與奕棋、則皆勝前古、故宋元國手、至明已差一路、清則差一  
 路半、何則袒古人、手談所及、更復專心致志、人々相繼、探奧鉤玄、故得積分黍之功、以出古人之右、然則  
 今之所以勝古者、其唯奕棋乎、後之君子、豈可以不貴重之乎哉、而世之曲士、不察其故、猥加木野狐之  
 稱、以爲其迷惑人、不亞酒色、雖然古之聖人造之、以教其子、而謂爲之猶賢乎己、若果如世之所言、則是  
 聖人故造不仁之器、舉以教其子也、則其所爲固亦不賢乎己、何聖人之不自愛、是亦不思之甚也、且古  
 之仁人君子、往々好之、皆以爲忘憂消日之具、甚有當齋藥、賜死之際、猶爭劫畢局、聞天子廢立之變、猶  
 下子不已者、世之曲士、徒囿於拘墟之見、而不察達人解者、往々如此、猥認以爲荒惑之具、淫澗之比、豈  
 不亦惑乎、是非曲直、固無待辨者、○下

〔運歩色葉集志〕上手起於碁也

〔同運〕下手起於碁也